

さいたま市長定例記者会見

令和6年10月16日（水曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 それでは、定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

 それでは、記者クラブ幹事社、日経新聞社さん、進行よろしくお願います。

○日本経済新聞 10月の幹事社を務めます日本経済新聞と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

 では、今日の記者会見の内容につきまして、市長から説明をお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。

 本日は、大宮アルディージャのお話から、始めさせていただきたいと思えます。 昨年の11月、この記者会見で話題になったときは、「一戦一戦を全力で戦い、勝ち上がっていただきたい」とお話ししましたが、それから1年、その言葉どおりの戦いぶりで、見事J2への昇格を果たされました。選手の皆様、また関係者の皆様、そしてサポーターの皆様、本当におめでとうございます。

 私も13日の試合に駆けつけましたが、選手の皆様の気迫あふれるプレーや、サポーターの皆様の熱い声援に、胸が熱くなりました。

 今週末に今治戦がありますが、勝つか引き分けでJ3のリーグ優勝が決まります。2週続けての、うれしいニュースを楽しみにしています。

 さて、話は変わりますが、10月27日に投開票が行われる衆議院議員総選挙が、15日に公示されました。選挙管理委員会の話では、投票所整理券は、21日から23日までの間に配達されるとのこと。いつもの選挙より、配達が遅くなっていますが、お手元に届く前でも、選挙人名簿に登録をされていれば、期日前投票をすることができます。

 記者クラブの皆様におかれては、このことを広く市民の皆様にお伝えいただきたいと思えますので、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

 それでは、議題に入ります。

市長発表：議題1「第10回 東日本連携・創生フォーラム」～新幹線荷物輸送サービスによるシティプロモーションを提案します～

初めに、議題1「第10回 東日本連携・創生フォーラム」～新幹線荷物輸送サービスによるシティプロモーションを提案します～について説明します。

本市が行う東日本連携事業は、大宮駅が新幹線6路線の結節点という強みを生かした事業です。総合振興計画の将来都市像に掲げている東日本の中枢都市の実現に向けた重要施策の一つです。

ヒト、モノ、情報の対流を生み出すことにより、新たな消費や仕事づくりにつなげるとともに、「通過されるまち」から「降りてもらえるまち」、「訪れたいまち」となり、本市の地域経済活性化及び東日本全体の地方創生を目指す取組です。

その中心的な取組として、東日本の新幹線沿線の自治体を中心に都市間連携を協議する場である「東日本連携・創生フォーラム」を平成27年度から開催しています。

それでは、今年度の東日本連携・創生フォーラムについて説明します。

フォーラムは、今年でちょうど10回目の開催になります。日時は、10月30日水曜日、14時から16時までです。今回も、昨年度と同様に、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催します。会場は清水園で、ご覧の本市を含めた連携都市30都市中、22都市が参加予定となっています。

フォーラムでは、各都市から提案された議題の協議が行われるほか、これまでの連携事業の取組状況についての報告、また各都市に周知を図りたいトピックの情報共有が行われる予定となっています。

今回のフォーラムでは、3つの議題について協議する予定となっています。

まず、1つ目の議題は、さいたま市から提案する『「つなぐ旅～東日本～」インスタグラム』についてです。

本年7月に連携都市30都市のお勧めスポット、イベント、特産品等を

紹介する共同Instagramアカウント「つなぐ旅～東日本～」を開設しました。そのアカウントを活用し、来年の春に「桜をテーマとしたフォトコンテスト」を開催し、東日本地域への周遊を促すキャンペーンの実施を提案します。

現在フォロワー拡大のために、「東日本おすすめラーメン投稿キャンペーン」を来月末まで実施していますので、そちらもぜひご参加ください。次に、議題の2つ目です。こちらもさいたま市から提案する「新幹線荷物輸送サービスを活用したシティプロモーション」についてです。

今回、鉄道事業者と連携し、連携都市にこの新幹線荷物輸送サービスを活用いただき、各都市の新鮮な特産品等を大宮駅で紹介、販売しながら、シティプロモーションイベントを実施することを提案します。

イベントは令和7年秋頃を想定しています。現在、11都市に参加意向を示していただいています。

これまでは、まるまるひがしにほんでのPR、販売が多かったわけですが、今回は人通りのさらに多い大宮駅の構内でのイベントであることに加えて、このサービスによって輸送した特産品を目玉とし、複数の都市が一堂に会し実施することで注目度の高いイベントとなり、より効果的なシティプロモーションにつながるものと考えています。

また、現地で味わう状態と近い状態で特産品等を味わってもらえる環境をつくり出すことで、各都市への関心を引き出し、ひいては現地への誘客促進にも期待できるものと考えています。

本市では、これまでに鉄道事業者の実証実験への協力等を通じて、新幹線荷物輸送サービスを活用したイベントをまるまるひがしにほんを中心に実施してきました。例えば函館市が令和3年度に開催したイベント「函館物産展」では、朝どれの新鮮な魚、貝のお刺身を新幹線で輸送し、販売を行いながらプロモーションを実施していただきました。

また、本年5月に新潟県のイベントを開催した際には、新潟市内で大人気の老舗和菓子屋の「薄皮大福」を輸送、販売し、輸送した50パックが10分で完売する人気となりました。

フォーラム当日は、この新幹線荷物輸送サービスを体感いただくため、会場にお越しの方に新幹線で輸送した大福を味わっていただくことも予定

しています。

続いて、議題の3つ目です。これは、会津若松市とさいたま市から提案する「東日本連携・創生フォーラム10周年記念事業」についてです。

平成27年10月の第1回フォーラムにおいて、「地域資源の相互活用による相乗的な地域活性化の促進」を図ることなどを盛り込んだ「東日本連携・創生フォーラム宣言」を採択してから、令和7年度で10周年を迎えます。これを記念して、連携各都市が合同で各地域の特産品や観光PRを実施する「(仮称)東日本マルシェ」をまるまるひがしにほんで開催することを提案します。

イベントは、令和7年4月から7月、毎月1週間程度、計4回の開催を想定していて、フォーラム開催後、各回の参加都市を募り、企画を進めていくことを予定しています。

議題に続いて、前回フォーラム以降、この1年間に行われたご覧の7つの連携事業の取組について各都市から報告いただく予定です。

例えば福井市から、昨年度から配布を開始した周遊目的のカード、「ロケットカード」の実施状況等について報告いただく予定です。

本市からは、イベントを通じた連携やまるまるひがしにほんの特徴的な活用実績等について報告します。

また、まるまるひがしにほんの令和5年度の実績についてです。来場者数が約106万人となり、開館以来初めて100万人を突破しました。東日本地域の自治体等にシティプロモーションで43回、114日活用していただいたほか、市内事業者等とのビジネスマッチングが997回行われました。

今後も市民が今まで以上に東日本各地域を身近に感じることができるよう、各自治体と連携しながら効果的なシティプロモーションを実施していくことで、東日本のハブとなれるよう努めていきます。今回のフォーラムがそれぞれの都市の強みを生かして、さらに都市間連携が深まる有意義な会にしていければと考えています。このフォーラムを中心に、東日本の「ヒト・モノ・情報」の交流、発信をさらに促し、本市の将来都市像である「東日本の中核都市」の実現につなげていきます。

市長発表：議題2『「スポーツ」と「アート」をデジタルで融合！～「SAITAMAウォーキングアワード2024」を開催～』

続いて、議題2『「スポーツ」と「アート」をデジタルで融合！～「SAITAMAウォーキングアワード2024」を開催～』について説明します。

本市では、一般社団法人日本ウォーキング協会や一般社団法人さいたまスポーツコミッションなどと連携して、「SAITAMAウォーキングアワード2024」を開催します。実施期間は、本日から令和7年1月31日までです。

このアワードでは、「アプリウォーク」と「GPSアートウォーク」の2つの部門を設けます。楽しみながらウォーキングに取り組んでいただけるよう、プログラムを用意しました。

それぞれの部門でウォーキングをお楽しみいただき、すばらしいウォーキングの成果を収めた方やウォーキングで描かれた優れた作品を「アワード」として表彰します。

まず、「アプリウォーク」について説明をします。「アプリウォーク」は、市内各区に設定されたウォーキングコースをできるだけ多く踏破することを目指していただくプログラムです。どなたでも無料で参加いただけます。

参加に当たっては、初めにSAITAMAウォーキングアワード公式サイトから参加申込みを行っていただきます。申込みでは、踏破を目指す区を選んでいただきます。次に、日本ウォーキング協会の公式アプリである「J-Walking」をダウンロードしていただきます。アプリ「J-Walking」内の「リアル踏破コース」に表示されている市内のコースを選択いただきます。以上で準備は完了。あとは、アプリを見ながら選択したコースを自分のペースでお楽しみいただくというものです。

アプリウォークのコースは、市内各区に設定されていて、全部で46コース用意しています。1つの区のコースを全て踏破をすると、各区ごとの踏破カードを差し上げます。また、5区、10区のコースを踏破すると、それぞれシルバー、ゴールドのスペシャルカードを贈呈します。期間中は、

好きな時間に自分のペースでできるだけ多くのコースを歩いていただき、さいたま市の魅力を発見してください。

続いて、「GPSアートウォーク」について説明します。「GPSアートウォーク」は、歩行やランニングの軌跡が記録できるスマートフォンアプリやランニングウォッチなどのGPSデバイスの機能を使い、ウォーキングの軌跡で地上絵、GPSアートを描いていただくものです。スポーツとアートをデジタルで融合したアクティビティです。

アートウォークのやり方を簡単に説明すると、初めに自分の描きたいものを決め、どういったコースを歩けば絵が出来るのか、紙の地図などに描いていただきます。次に、歩くコースが決まったら、GPSデバイスを使いながら実際にコースを歩いていただきます。最後に、完成したGPSアートをスクリーンショットで保存し、ご応募いただきます。

ご覧いただいている作品は、さいたま市出身でGPSアートのパイオニアでもある「Y a s s a n」が作成した作品です。

GPSアートウォークで募集する作品のテーマは「私の好きなさいたま市」です。テーマに沿っていれば、どこを歩いて描いていただいても構いません。どなたでも無料で参加、応募いただけます。また、期間中であれば、一人何作品でも応募が可能です。皆様の「好き」が感じられる作品をたくさんご応募いただけることを期待しています。

GPSアートウォークに初めて挑戦する方のために、実施期間中、ワークショップを市内4つの会場で合計8回開催する予定です。ワークショップの申込みは、ウォーキングアワードの公式サイトから申込みが可能です。

また、サイト内では、GPSアートの作り方を動画等でも紹介していますので、ぜひご覧いただきたい。

「アプリウォーク」「GPSアートウォーク」、それぞれの部門ごとに表彰を行います。表彰は、令和7年3月にウェブ上での公表と併せて、3月に開催する「さいたまーチ」での表彰を予定しています。

「アプリウォーク」では、完歩いただいたコース数等を基に表彰を行う予定です。また、「GPSアートウォーク」では、応募いただいた作品の中から、優れた作品を表彰する予定です。詳細については、今後ホームページ等を通じてお知らせします。

この機会に市民の皆様はもとより、市内外の多くの方々にご参加いただき、歩くことの楽しさを知っていただくとともに、楽しみながらウォーキングする習慣を身につけていただきたい。多くの皆様の参加をお待ちしています。

市長発表：議題3 J:COM presents2024 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムの見どころを紹介します

続いて、議題3「J:COM presents 2024 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムの見どころを紹介します」について説明します。

いよいよ10回記念となるさいたまクリテリウムの開催まで2週間となりました。当日の大会の楽しみ方を説明します。

まず、海外招聘選手のうち、新たに出場が決定した注目選手を2名紹介します。

まず1人目は、ツール・ド・フランス2023でポイント賞を獲得、今年のツール・ド・フランスでもポイント賞で2位を記録し、2022年のさいたまクリテリウムでは初出場で優勝を果たしたヤスペル・フィリップセン選手です。

なお、さいたまクリテリウムの歴代優勝者は、このフィリップセン選手を含めて6名が来日することとなりました。10回記念大会にふさわしいメンバーがさいたまに集結します。

2人目は、自転車三大レースのツール・ド・フランス、ジロ・デ・イタリア、ブエルタ・ア・エスパーニャの全ての大会で区間優勝の実績があり、今年のブエルタ・ア・エスパーニャでは、過去最多タイ記録となる通算4回目の総合優勝を果たしているプリモシュ・ログリッチ選手です。

なお、ログリッチ選手の所属するチームは、レッドブル・ボーラ・ハンズグローエから、このログリッチ選手以外にも3名の選手の出場が決定しています。

続いて、さいたまクリテリウムのメインレースの見どころについて説明します。

海外招聘選手、国内参加選手が約3.6キロメートルのコースを17周回するエキサイティングなレースです。10回大会の記念コースとして、

大会初めてとなるさいたまスーパーアリーナのメインアリーナを通過します。

私自身も、10回大会ならではのメインアリーナ中央を駆け抜ける選手の姿を見られることを非常に楽しみにしています。

本場ツール・ド・フランスでも実施されているパレードランの後に正式なスタートを切ります。海外の有名選手がゆっくりと走り抜ける姿から、正式なスタート後、速度を上げ、真剣にレースを繰り広げる姿、2つの姿を観戦することができます。

そのほか、さいたまクリテリウムのコースの見どころとポイントについて3つ紹介します。

まず1つ目は、アンダーパスを上った後のコースで唯一の丁字路。合計3回選手を見ることができる見どころたっぷりの観戦ポイントです。

そして、2つ目は、折り返し地点。一番スピードが落ちる部分のため、その分選手の表情もよく見えるポイントとなっています。

3つ目は、フラムルージュという目印があるゴールまで残り1キロメートルのポイント。選手の最後の駆け引きや残り1キロメートルのラストパートが見ることができる場所となります。

最後は、やはりゴール前のスプリントが見どころとなります。

なお、今大会は、ツール・ド・フランス本大会でポイント賞争いをしたギルマイ選手とフィリップセン選手のスプリント争いもメインレースの大きな見どころの一つとなります。

見どころ満載のコース設定となっているので、ぜひご期待いただきたい。

続いて、さいたまクリテリウムのステージイベントについて紹介します。

10回大会を記念するステージイベントの特別企画としては、さいたまスーパーアリーナのメインアリーナ内で「SPECIAL ACT supported by J:COM」を実施します。注目のパフォーマンス集団「アバンギャルディ」が出演し、ダンスを披露します。

また、「J-POP CLASSIC CLUB TOKYO」「埼玉栄高校の吹奏楽部」が出演・演奏し、コラボレーションした大会オリジナルファンファーレも披露されます。

ステージイベントについても、10回大会にふさわしく、これまでにな

い豪華な企画となっていますので、ぜひ多くの方にご覧いただきたいと思
います。

次に、「たのしい発見、笑顔がいっぱい！みんなのキッズクリテリウム」
がコンセプトの「キッズクリテリウム」の見どころを紹介します。

まず、子どもが主役のツール・ド・フランスさいたまクリテリウム「キ
ッズクリテカップ」では、山岳賞やスプリント賞を設けるなど、本場ツ
ール・ド・フランスの要素も取り入れています。

また、「スポコミフェス」では、5歳から小学生までを対象とし、ダンス
やスラックラインなど20種目以上のスポーツを体験することができます。
そして、スポーツの楽しさに触れる機会を提供していきたいと考えていま
す。

「スポコミフェス」はチケット制となっていて、チケットは現在販売中
です。ぜひお買い求めいただきたいと思います。

最後に、クリテと一緒に盛り上げる「チアフェス」では、出演者や家族、
観客が感謝を伝える「ありがとう」をコンセプトして、キッズクリテリ
ウムレースの応援演技や大型映像、照明でショーアップされたステージで演
技を披露いただきます。このように世界的な国際自転車競技大会の開催に
合わせて、子どもたちがスポーツを楽しむ機会が設けられていることは、
大変意義のあることであり、この日の経験をきっかけに自転車競技をはじ
め、様々なスポーツの世界で活躍してくれることを期待しています。

次に、当日のタイムスケジュールはご覧のとおりです。一般体験走行は、
事前に応募いただいたさいたま市内、また埼玉県内在住の参加者が実際
に選手がレースを行う特設コースを走行するものです。なお、オフィシャル
サポーターズの「ライダーズプラン」と「チーム帯同プラン」にお申込み
いただいた方は、海外選手と伴走できます。観戦者の声援に応えながら走
行する選手の表情が見どころとなります。もしかしたら、沿道でご観戦い
ただいている方と選手たちとのハイタッチが期待できるかもしれません。

タイムトライアルレースは、全長約3.2キロメートルのタイムを競う
ために、スプリンターと呼ばれる、瞬間的に爆発的なスピードを出すこ
ができる選手が活躍するものです。なお、個人タイムトライアルレースは
女子、男子ジュニア、またパラサイクリングの選手、また秩父宮杯大会優

勝者が走行します。将来、日本の自転車競技界を背負っていくことが期待される女子と男子のジュニア選手たちの走りを見ることができます。

また、パラサイクリングでは、パリパラリンピック、自転車の女子個人ロードレース、運動機能障害のクラスで2大会連続の金メダルを獲得した杉浦佳子選手の走りを見ることがもできます。

ステージイベントについては、先ほど説明したとおりです。また、ステージイベントの後、クリテリウムメインレースを実施します。海外のトップライダーと日本国内選手が繰り広げる熱戦をぜひご覧いただきたいと思えます。

そして、最後に大会の表彰式を行います。

10回記念大会の特別企画について説明します。10th edition 歴代優勝者アート企画について説明します。さいたま市立4校と埼玉県立大宮光陵高校の美術部による歴代優勝者9選手と、さいたま市の特徴であるアリーナ、さいたま新都心、クリテリウムコースなどの風景と掛け合わせてアート作品を作成する企画です。大会当日、会場に向かうさいたま新都心駅の東西自由通路に展示をする予定です。ご覧いただいているのは、昨年度、埼玉県立大宮光陵高校の美術部の生徒に作成いただいた黒板アートです。今年度も黒板アートの作成を依頼しています。また、さいたま市立の4校にも過去優勝選手9名のアートの作成を依頼しています。どのような作品を作成いただけるか、私も楽しみにしています。

ツール・ド・フランス記念品を展示したミュージアムについて紹介します。ツール・ド・フランスは1903年に開催した第1回から数えて、今年で111回目となる大会を迎えました。さいたまスーパーアリーナで過去の本大会で実際に使用されたアイテムを展示します。

また、左上のイエロージャージは、今大会のさいたまクリテリウムにも出場が決定しているクリストファー・フルーム選手がツール・ド・フランス100周年の2013年大会で獲得したイエロージャージです。そのほか、歴代の4賞ジャージも展示する予定です。

左下の画像は、1984年のツール・ド・フランスのコースを示したロードブックです。ロードブックはしばしば聖書と呼ばれ、ライダーや関係者、また主催者、ファンにとって記載されている情報は非常に重要なもの

です。これらの記念品は、さいたまスーパーアリーナ内の展示となるために、現在募集中のオフィシャルサポーターにお申込みいただいた方限定でご覧いただけます。

オフィシャルサポーターズの2階スタンド席観戦プランは、コースに比較的近い自由席でアリーナ内でのレース観戦、またステージイベントを楽しみたい方にお勧めのプランとなっています。また、4階スタンド席については、市内小学生とその保護者の無料招待を実施しています。なお、オフィシャルサポーターズの販売期間を延長することが先日発表されました。先着順のため、お早めにお申込みください。

最後に、今年は記念すべき10回大会となります。世界のトップライダーがさいたまの地に集結し、圧倒的なスピードで観客の皆様の目の前を駆け抜けます。その風を切り進むスピード感と迫力は大きな興奮を与えてくれると思います。11月2日土曜日、さいたま新都心で繰り広げられる、これまでにないスリリングなレース展開をお楽しみください。

私からの説明は以上です。

議題に関する質問

○日本経済新聞

ご説明ありがとうございました。

まずは、市長発表について幹事社の日経新聞から2点ご質問させていただきます。

いずれもマルシェに関連してなんですけれども、まず1点目は、特に大宮のエリアなんですけれども、交通の要衝としてほかのターミナルとなる場所、例えば品川であったり東京とかいろいろあると思うんですけれども、そういったところも含めてさいたま市大宮のエリアの優位性というのをどのように考えているかというのを改めてお伺いできますか。

○市長

鉄道の新幹線の6路線がこの大宮を最後に分かれていくこととなります。東日本、北海道、東北、上越、信越、北陸、こういった地域に極めて短時間でつながることができる交通の要衝にあることが一つです。

それから、東京とも非常に近い場所にあります。これまでの首都圏広域地方計画では、東日本の対流拠点というヒト、モノ、情報が対流する位置づけをいただいているとともに、新幹線が最初にスタートしたときに大宮

(駅が)始発でした。そこで、ホームが3つあるので、それを活用して、今日ご案内した新幹線物流など、始発、終点の発着ができるホームを持っていることは大きな強みです。私たちとしては東京駅での停車時間が極めて短いという中で、大宮駅での発着が増えるほど、新幹線物流をしやすい環境ができます。また大宮駅は高速道路とのアクセスも、比較的近い場所に高速道路が走っていますので、そういったところと連携することによって鉄道網と道路網、まさに両方の結節点になるということも大変大きな強みであると考えています。

○日本経済新聞 同じまるまるひがしにほんの広域連携の関係で、もう一点お伺いしたいことがございまして、これは予算との兼ね合いとかというのは一度度外視した上で、今後東日本連携というものが5年とか10年とか比較的中長期的に、市長としてはどのような連携の形にしていきたいのか、市長の思いみたいなのをお伺いできればと思います。

○市長 まず1点目は、ちょうど10年が経過しましたが、この10年は、どちらかというと私たち行政主導で旗を振りながら東日本連携というものを進めてきたと思っています。徐々に民間ベースでのつながりが深まっていくことが望ましいと思っています。そういった事業をいろいろ企業、金融機関が率先して行っていただくことで、事業がさらに進んでくると思います。そういった次の時代を見据えていきたいと思っています。

また、まるまるひがしにほんという拠点をつくったわけですが、まるまるひがしにほんだけで完結しているわけではなくて、まるまるひがしにほんの店、あるいはビジネスマッチングをたくさんやらせていただいています。私たちとしては、まるまるひがしにほんという拠点を活用していただきながら、これはあくまでもマーケティングの場所と捉えています。そこから面的に東日本のおいしいものが買える場所をたくさん増やしていき、そしてまさに東日本のいろいろ地域の方々にとって、首都圏へのまさに文字どおり玄関口、マーケットのまさに玄関口になるような役割をさらに果たしていきたいと考えています。おかげさまでビジネスマッチングの数も増えてきましたし、まるまるひがしにほんの店も増えてきました。今後、さらに民間ベースのつながりを増やしていきたいです。

それからもう一つは、SDGsの宣言も、全ての自治体ではないですが、

しています。これから経済の交流だけではなくてスポーツや他分野の交流なども含めて行っていくことで、お互い人が行き来し合ったりすることで信頼感を増して、さらに経済交流以外の信頼関係あるいは交流を積み重ねていきたいと思っています。

○日本経済新聞 市長の説明に対して、各社様、質問がありましたら、マイクを使用してご質問お願いいたします。

○ 読売新聞 読売新聞です。お話ありがとうございました。

東日本の連携の関係で報告事項のところになるんですけども、先ほどの話で1年間の成績としてこういったことを報告するというお話ありましたが、特にさいたま市としてこの市町とこの1年はちょっと連携を意識したとか強化したとか、そういうところがありましたらお願いします。

○ 市 長 今年一年でいうと、北陸新幹線の開通がありましたので、福井県福井市、北陸地域との連携が非常に強かったと感じています。昨年の12月に福井県と協定を結ばせていただき、去年もかなり新幹線の開通に向けていろいろな交流を進めてきましたが、今年新幹線の開通があり、その中でさらに一層深まったと感じているところです。

これまで北陸については距離的にも、また交通手段としても乗換えが何度かあったり行きにくい場所でしたが、この新幹線の開通によって、より身近な場所になってきたと言えるのではないかと思います。

○ 読売新聞 新幹線輸送のところで、大宮駅構内で特産品とかをPRするシティプロモーションイベントされるとお話ありましたけれども、今まではまるまるひがしにほんというところで、駅構内でこういうプロモーションをするのは初ということでよろしいのでしょうか。

○ 市 長 はい、そうです。

○ 時事通信 時事通信です。お話ありがとうございました。

S A I T A M A ウォーキングアワードの件でお伺いしたいんですが、まずこれを開始するに至った経緯と目的を教えてくださいと思います。

○ 事務局 まず、このイベントを開催するに至った経緯ですけども、日本ウォーキング協会からご提案いただきまして、今回「Sports in Life推進プロジェクト」という、スポーツ庁が実施しているスポーツ実施率等を高めていくイベント、公募事業に応募し、その採択を受けて取り組むことになりま

した。こちら、先ほど市長からもありましたが、日本ウォーキング協会を代表団体として、さいたま市、あとはさいたまスポーツコミッション等と連携して、今回ウォーキングのイベントを実施します。

日本ウォーキング協会とは、3月に開催しているさいたまマーチでも実行委員会に加わっていただいていますので、そちらの目標1万人に向けていろいろ取り組んでいく中で、本イベントも活用していけたらと考えています。

○ 時事通信 ありがとうございます。

具体的に市民に対して、これを活用してどのようにやってもらいたいという目的はございますか。

○ 市 長 まずは、さいたま市では、週1回以上スポーツをする人の割合を高めていこうという全体としての目標があります。おかげさまで週1回以上スポーツをする人の割合が70.8%、大変上昇しているところです。政令指定都市になったときには3割を切っていましたので、倍以上増えたことになります。

それを大きく引き上げている要因として、(市民が取り組んでいるスポーツの)1位がウォーキング、2位が自転車・サイクリング、そして3位がランニングとなっていて、その中でやはりウォーキングが一番市民に身近で始めやすいスポーツということで、これまでいろいろな形でウォーキングをされていた方々もいらっしゃると思います。各区ごとにコースを設定して奨励もしてきましたが、さらにウォーキングを楽しむという視点から、付加価値というか、ゲーム性のある取組をやることによって、さらにウォーキングをする人の割合を増やしていきたい、結果として週1回以上スポーツをする人の割合を増やすことができ、健康で長生きができるまちをつくりたいということです。

○ 時事通信 ありがとうございます。

もう一点だけなんですけど、今回2つのコースというか、部門があるということで、それぞれ何人ぐらいの利用を目標としているか教えていただけますでしょうか。

○ 事務局 部門ごとに設定はしていませんが、全体で1,000人を参加目標として取り組んでいます。

幹事社質問：

さいたま市みんなのアプリの現在の利用状況及び今後の展望をお聞かせ下さい

○日本経済新聞 市長発表については、質問はこれでないようなので、次いで幹事社質問のほうに移らせていただきます。

さいたま市みんなのアプリが7月にリリースされて3か月ほどということで、現在の利用状況及び市長の考える今後の展望というところをお聞かせいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○市長 それでは、幹事社質問にお答えします。

まず、さいたま市みんなのアプリのサービス開始が7月31日からスタートして、約2か月半が経過したところです。10月15日時点の利用状況としては、約6万3,000人の方にアプリのダウンロードをしています。また、アプリ内で提供するさいコインの加盟店については、約1,500店舗に加盟いただいている、日々増えている状況です。

また、10月1日からパパママ応援ギフトが行政給付として初めてデジタル地域通貨でも受け取れるようになりました。10月15日時点で、139人の方にデジタル地域通貨での受け取りを希望する申請をいただいている状況です。

今後については、アプリ機能の拡充、ポイント抽選キャンペーン、またイベントでの周知など、様々な取組を進めていく予定です。

具体的には、まずこのアプリの名称は、さいたま市みんなのアプリなので、多くの方からご要望をいただいている現金チャージ、あるいは利用者間でさいコインを送金することのできる機能についても導入準備を進めているところです。

また、年末頃には総額2,000万円相当のポイントが当たる抽選キャンペーンの実施も予定しています。さらに、初回ダウンロード時の2,000ポイント付与やチャージの際の3%ポイント還元といったポイントキャンペーンに加えて、ボランティア活動や健康活動などに参加した方に対して、たまポンを付与する企画も順次進めていきます。

また、ポイント付与の対象は、今後も増やしていく予定ですが、それぞ

れ「さいコインを使っていたきたい」、「皆さんと一緒に地域を盛り上げたい」、「健康になっていただきたい」という市からのメッセージでもあります。このポイントの付与が、市民の皆様の行動変容のきっかけになって、さいたま市をより一層「住みやすい・住み続けたい」まちにしていきたいと考えています。

また、11月2日にさいたま新都心で開催予定の「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」で同時開催される「サイクルフェスタ」及び「さいたまるしえ」でも、「さいコイン」、「たまポン」が利用できるようになっています。市外の方もつきますので、ぜひ2,000ポイントをもらってご来場いただいて、当日はたくさんのお店など、いろいろなお土産なども用意されていますので、ご購入いただければと思います。

皆様の暮らしをより便利に、また地域経済をより元気にするために、今後とも多くの事業者に加盟店の申込みをいただくとともに、一人でも多くの方にアプリをご利用いただきたいと考えています。

○日本経済新聞 ありがとうございます。

幹事社質問に関連して、各社様追加質問等ございますか。

特になさそうなので、ではその他の質問、各社さん、どうぞよろしくお願ひします。

その他：衆議院議員選挙について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。ご説明ありがとうございました。

昨日公示された衆議院選についてお聞きしたいんですけども、今回の選挙に市長が期待することと、あと冒頭で説明ありましたがけれども、急な選挙で投票率の低下が懸念されるかなと思うんですけども、その辺について呼びかけなどをお願いします。

○ 市 長 まず、今回の衆議院選挙は、国政を担う衆議院議員を決める大変重要な選挙になります。それぞれ各党、また各候補者、それぞれの政策を訴えて選挙戦が繰り広げられていますので、ぜひ市民の皆様には、それぞれの候補者の政策や、人間性、それぞれの思いをしっかりと聞いていただいて、市民の皆さんご自身が未来の選択をしっかりといただくことが重要だと思います。ぜひ投票所に足を運んで投票していただきたいと思っています。

また、投票所の整理券については、既に発表していますが、10月21日

から23日の間に届くこととなります。通常よりも遅くなっていますので、期日前投票に影響が出てくるのではないかと気にしているところです。しかし、投票所の整理券がなくても期日前投票ができますので、もう既に本日からできるようになっているので、投票所に足を運んでいただきたいと思います。よろしくお願いします。

その他：決算の不認定について

○ 埼玉新聞 別件なんですけれども、先週決算特別委員会で不認定ということで、2年連続になるんですけれども、本会議の採決はこれからだと思うんですが、2年連続不認定になったことへの受け止めと、不認定になった原因として何が一番問題だったのかという市長のお考えをお聞かせいただければと思います。

○ 市長 今お話のとおり、現在は決算委員会でのご議決というところで、今後本会議等で最終的な結論が出ることなので、その前の段階での見解になりますが、市議会9月定例会の決算特別委員会において、令和5年さいたま市一般会計及び特別会計の決算議案が不認定となりました。本会議における採決の前の段階ですが、昨年度に引き続いての不認定ということで、決算特別委員会において不認定の判断をいただいたことを大変重く受け止めています。

今回の件については、予算執行事務において不適切な対応があり、決算特別委員会における決算議案の不認定につながったものと認識をしています。今後は、全庁的な業務管理体制の見直しと強化、また職員の育成、公印管理などセキュリティーの確保についてしっかりと改善を図り、適正な予算執行に努めていきたいと考えています。

○ 時事通信 時事通信です。

その他：改正戸籍法について

ちょっと早い話で恐縮なのですが、来年の5月に改正戸籍法が施行されるということで、それに合わせた国の準備がまだまだ伴っていないということで、先日全国市長会であったり、指定都市市長会で法務省に要望を出されたと思うのですが、来年5月に施行されるということに対してのさい

たま市としてのお考えと、あとはさいたま市としての準備状況について教えていただければと思います。

- 市長 所管課が今日はこの場に来ていませんので、後ほど説明させていただきたいと思います。

(法改正に伴って事務を進めていかななくてはいけないですが、) そういった費用等について必ずしも十分担保されていないところがあって、私たちとしては国でしっかり対応してほしいという要望などをしているところです。詳細については担当所管課からお話しさせていただきたいと思います。

その他：自転車まちづくりについて

- 読売新聞 読売新聞です。

クリテリウムに関連してなんですけれども、議題とは別に、先日の記者会見で自転車のまちづくりを進めているというようなお話があったと思うんですが、その中で自転車レーンと放置自転車の対策というか、に結構力を入れてきたというところで、すみません、勉強不足で大変恐縮なのですが、そもそも自転車レーンって結構珍しいかなと思うんですが、これができた背景とかがあって何かあるんでしょうか。

- 市長 さいたま市の自転車保有率は、全国の政令市の中で最も高い状況にあります。それは、土地が比較的平たんなところがあって、特に通勤通学等で自転車を活用するという方が非常にたくさんいるということもあって、自転車の保有率としては政令市でナンバー1です。ただ、もう一方で事故も、当時は2番目か3番目ぐらいだったと思いますが多いという状況もあります。今ヨーロッパ、そしてアメリカも含めて、ゼロカーボンシティを実現するために、自転車を利用したまちづくりが大変多くの都市で活用されています。私たちとしても利用者数が多いことや、環境に優しいまちをつくりたいという思いで、自転車の利活用について「さいたまは一と」という計画をつくりました。

そして、その「さいたまは一と」では、4つの分野を特に中心にやりましょうということで決めました。1つが「はしる」、2つ目が「とめる」、3つ目が「まもる」、4つ目が「たのしむ」です。

順番は違うかもしれませんが、まず「はしる」については、何と

も自転車が走る環境をできるだけ快適に走りやすい環境をつくる。それから、事故が起こりにくい環境をつくっていくことが大切だということで自転車レーンの整備を、当時は10年で200キロという目標をつくりました。現在216キロまで整備はできていますが、特に駅前の自転車が多くなる、駅まで自転車で通勤通学をされる方が多いので、そういった自転車がより多く走るところから優先順位を決めて、200キロ、そして今216キロまで自転車レーンの整備をさせていただきました。この結果、レーンが整備してあるところの事故の割合はぐっと下がって、自転車の事故が大幅に減ったという状況があります。

また、「とめる」については、当時放置自転車が駅前をはじめ商業施設等、いわゆる繁華街というか、駅近くのところに大分多くありましたので、併せて駐輪場の整備をしてきたところです。

それから、「まもる」については、ルールをしっかり守っていただくような取組をしようということで、まずは全ての小学校5年生に自転車運転免許を取ってもらうということで埼玉県警察と連携をしたり、交通指導員の皆さんにご協力をいただいて、全ての小学校5年生に子ども自転車運転免許を取ってもらっています。(※会見の最後に、小学校5年生ではなく4年生である旨訂正)中学生以上についてもスケアード・ストレイト技法という、事故がどんなに大変なものかを知っていただき、結構衝撃的な、そういった交通安全の啓発などもしています。自転車による交通ルールを守っていただく環境を整備しています。また、子育て中のお母さんたちを対象にして、子どもさんとお母さんが乗れる、二人乗りの電動アシストつき自転車の購入補助をして、そしてその方々には交通安全の推進員の役割も果たしていただき、交通ルールを守ることを研修する取組をしてきました。

そして、「たのしむ」というところでは、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムであるとか、今は直接はやっていませんが、自転車でスイーツ巡りをしたりとか、そういう取組をやらせていただいたりしています。また、自転車のサポートステーションを広げていって、サイクリングとか自転車を使って楽しむことを感じてもらう取組をしてきて、今日に至っています。

おかげさまで、どれも大きな成果を上げることができていると思ってい

ますし、また「たのしむ」のところでも、土日は多くの方がサイクルウェアを着て自転車で、ロードバイクでまちを走っている姿をよく見ます。また荒川河川敷にサイクリングロードがありますけれども、たくさんの皆さんが行き交っているという様子が見られるようになってきていると思っています。

私たちとしては安全で快適で、そして楽しい自転車文化をつくろうとの思いで進めてきました。ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムは、その一環の一つということでご理解いただければと思います。

- 読売新聞 追加ですみません。その自転車レーンというのは、今もまだ広げているものなのですか。
- 市長 当時1年間で、20キロ整備するということで、かなり増えてきました。警察と協議しながらつくっていくものですから、第1期のペースほどはできませんが、第2期も何キロだったかは、後ほど説明しますが、目標数を設定してやらせていただいています。

その他：大宮アルディージャ J2 昇格について

- 埼玉新聞 すみません。冒頭にも市長からお話しありましたが、大宮アルディージャについてお聞きしたいんですけれども、今期圧倒的な力で優勝をしまして、今期の戦いを見て市長はどうお感じになったかなということと、今度19日にNACK5スタジアムで今治との試合がありますけれども、優勝かかった試合ということで、それに向けた期待など聞かせていただければと思います。
- 市長 昨シーズンは、J2から、まさかと思いましたが、J3への降格ということで非常に悔しい思いをしました。それは私だけではなくて、チーム関係者、またファン、サポーターの皆様もそうだったと思います。このシーズンは開幕から12戦無敗ということですばらしい結果を残し、また圧倒的な力を発揮して、1年でJ2への昇格を決めてもらったことは、大変私たちにとってもうれしいことだと思っています。また、ぜひ今週末のホームゲームで勝利を収めていただいて、多くのサポーターの前でJ3リーグ優勝を決めていただきたいと思います。

来シーズンは、J2での舞台ということになりますが、一戦一戦全力で

臨んでいただいて、さらに高みを目指して、一日も早くJ1に復帰をして
いただきたいと思います。再びレッズとアルディージャと、さいたまダー
ビーを繰り広げていただいて、さいたま市民を熱狂させていただきたいと
思っています。

○日本経済新聞 質問はよろしいでしょうか。

○市 長 自転車運転免許は、小学校4年生です。5年生ではありません。

○日本経済新聞 では、各社様質問はなさそうなので、こちらをもちまして記者会見を終
了させていただきます。どうもありがとうございました。

○進 行 それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
す。

なお、次回の開催ですが、11月6日水曜日午後1時30分からを予定
しています。本日はありがとうございました。

午後 2時27分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理した
ものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）と
し、下線を付しています。